

吉報！

株式会社デイサービスいしかわ代表取締役の石川 正幸先生（元 香川県理学療法士会副会長）が、第46回**医療功労賞**を受賞されました！

医療功労賞とは？

日本が世界有数の健康大国であるのは、優れた地域の医療従事者に支えられているためです。社会の高齢化が進むにつれ、地域医療への期待はこれからも高まります。読売新聞社は、こうした地域医療への貢献者を顕彰する目的で、医療功労賞を設立しました。

社会の変化や技術の進歩にともない、医療を取り巻く環境はめまぐるしく変わっています。医療功労賞が、すべての人が適切な医療を受けることができ、地域住民が健康で安心して暮らせるよう尽力している医療従事者の励みになることを願っています。

読売新聞 HP より一部抜粋

授賞式の様子



医療功労賞受賞に思うこと

小児施設に就職した当初、意のままに体を動かすことが出来ない脳性麻痺の子供たちでも電動車椅子を操作できれば移動が出来ると思いグラウンドの真ん中で駆動練習をしました。しかし、うまく駆動できなくて、何とか ならないものかと思いました。

その後、姿勢と運動を分析できるようになり、座位姿勢もコントロールできるようになりました。そして、多くの方の協力があって電動車椅子の制御系の知識を習得することが出来ました。またリハ工学エンジニアの協力を得て、構想を実現する時が訪れました。その 1 スイッチ電動車椅子コントローラーは、日本・アメリカの既存のコントローラーの半分の時間で目的に到達できるという優れた性能を発揮しました。座位姿勢のコントロールと 1 入力コントローラー制御の電動車椅子を組み合わせることで体に負担を掛けない移動手段を作り出すことが出来ました。

現在は、デイサービスを立ち上げ、ここに集う利用者さんや職員に理想の世界を提供したいと考え奮闘中です。

ここに至るまでに幾つか印象に残る事柄がありました。その一つを紹介します。

80 才を過ぎた、入所施設で生活をしていた方のことです。両側片麻痺で片側の足部に随意性が残っていました。その方に、4 スイッチでコントロールできる電動車椅子を提供した時のことです。

電動車椅子をスイッチ駆動する知識は理解していたのですが、まだコントローラーを作ったことがありませんでした。作れるだろうと高をくくって、提供できると返事をしました。いざ作り始めるとなかなかうまく出来ません。基板に部品とコードをクモの巣のように配線して、苦労してやっと出来上がったコントローラーを電動車椅子に接続して、車でその患者さんの元へ運びました。今でも鮮明に映像として浮かびます。粉雪舞う登り坂を車で登っていく風景や、電動に実際乗ってもらって駆動している風景です。

この方は、電動を提供したことで施設内の移動が自立しました。目をキラキラさせて喜んでくれました。そして、亡くなるまで使ってくれました。

お役に立つことが出来て嬉しかったです。

若いセラピストの皆様へお願い

一つは、パワースタタイプの電動車椅子（前輪の向きをモーター制御している電動車椅子）は、小回りがきかないとすぐ業者が言いますがそれはテクニックでカバーできます。それよりも、この車椅子のメリットに注目すべきです。バリアフリーの歩道も車道も路面は排水のために傾いています。ここを電動車椅子で走行すると低い方向に向かっていきます。しかし、パワースタタイプの電動車椅子は路面がうねるような傾きを持っていても傾きに関係なく直進することが出来ます。左右どちらかに 15° の傾きがあっても直進します。屋外で使うことがあるのなら断然パワースタタイプの車椅子が有利です。これが安全に自立を促すことになります自信を持って是非推奨して下さい。

もう一つは、子供でも大人でも同じですが、障害を持ったその体と一生つきあって生活していきます。セラピストは、その目の前にいる方に、何が出来るのか常に模索して、専門性を高めてニーズに答えていって欲しいと思います。そして、感動できる事柄を増やして下さい。それが楽しい人生を歩むことになると思います。

デイサービスいしかわ 石川正幸

石川先生、本当におめでとうございました！